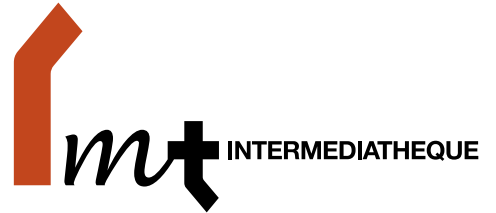


PRESS RELEASE



インターメディアテク
100 7003 東京都千代田区丸の内2-7-2
JPタワー/KITTE 2-3F
www.intermediatheque.jp

特別展示

『石の想像界——アートとアーティファクトのはざまへ』のご案内

2018年8月吉日

■本展覧会の特徴

「先鋭の現代美術作品と東京大学の学術標本が並ぶ、「石」の機能と造形美を巡る実験展示」

- 現代美術における「石」の存在を出発点とし、「石」の機能と造形美をテーマに約50点の作品を鉱物学・先史人類学・先史考古学など各分野の学術標本と組み合わせる、実験的な展示です。
- フランス人アーティストのユグ・レブとの共同企画による本展示は、東京大学が所蔵する学術標本に加え、アニエスベー・コレクションをはじめとする国内外の現代美術コレクションの協力のもと、日本で目にする機会が少ない作品を一堂に集わせます。
- 人間が「石」という天然物をいかに加工し、造形と機能を与え、それを人工物として生活圏に導入してきたかを明らかにすると同時に、現代美術がレディメイドやトロンプイユ(騙し絵)など多様な手法をもって「石」という自然素材を美術の領域に組み込む過程に注目し、現代美術そのものを特徴付ける美学的な思考と作為を再考する機会となります。

■基本情報

名称	特別展示『石の想像界——アートとアーティファクトのはざまへ』
会期	2018年9月26日(水)から2019年1月27日(日)まで
時間	11:00—18:00(金・土曜日は20時まで閉館) *時間は変更する場合があります
休館日	月曜日(月曜日祝日の場合は翌日休館)、年末年始、その他館が定める日
会場	インターメディアテク 2階「GREY CUBE(フォーラム)」
主催	東京大学総合研究博物館
協力	アニエスベー財団・基金 + 横田茂ギャラリー
後援	ヴァン クリーフ & アーペル + 在日フランス大使館 / アンスティチュ・フランセ パリ本部
入館料	無料
住所	東京都千代田区丸の内 2-7-2 KITTE2・3F
アクセス	JR 東京駅丸の内南口徒歩約1分、東京メトロ丸ノ内線東京駅地下道より直結

関連出版物

- 図録『石の想像界——アートとアーティファクトのはざまへ』
- カードリーフレット
- ポスター

■展示作家

和泉正敏(1938-)／アポロ計画[NASA]／アブデルカデル・ベンチャマ(1975-)／ミシェル・ブラジエ(1966-)／ブラッサイ[ハラス・ジュラ](1899-1984)／フレデリック・ブリュリー・ブアブレ(1923-2014)／メラニー・カウンセル(1964-)／フランソワ・キュルレ(1967-)／ダニエル・デワール(1976-)＆グレゴリー・ジッケル(1975-)／ミモザ・エシャル(1986-)／ローラン・フレックスナー(1944-)／ミシェル・フランソワ(1956-)／ピエロ・ジラルディ(1942-)／モナ・ハトゥム(1952-)／ヴァレリー・ジュヴ(1964-)／ジャック・ジュリアン(1967-)／アンドレ・ケルテース(1894-1985)／ヘレン・レヴィット(1913-2009)／ロベール・マラヴァル(1937-1980)／ディディエ・マルセル(1961-)／ライアン・マックギンリー(1977-)／マチュー・メルシエ(1970-)／マルセル・ミラクル(1957-)／シャルロット・モフ(1978-)／ジャン＝リュック・ムレーヌ(1955-)／ガブリエル・オロスコ(1962-)／ジグマー・ポルケ(1941-2010)／ユーグ・レブ(1964-)／エヴァリスト・リシェ(1969-)／ジャン＝ミシェル・サネジュアン(1934-)／フランク・スクルティ(1965-)／シグルドゥール・アルニ・シグルドソン(1963-)／ファビオ・ヴィスコリオージ(1965-)

■主な展示コレクション

東京大学総合研究博物館(鉱物学／先史人類学／先史考古学)
アニエス・ペー・コレクション(現代美術)
各プライベート・コレクション(現代美術)

■主要展示物

1.

鉱物標本インスタレーション『石のインデックス』[東京大学総合研究博物館蔵]

各種鉱物の構造の同定を目的に製作されたプレパラート。顕微鏡に収まるように加工された極薄の切片が数百も並ぶコンセプト的なインスタレーションから、「石」の多様性が一目で分かる。

2.

ピエロ・ジラルディ『岩』[ギャラリー・セミオーズ(パリ)蔵]

目の錯覚を生み出す「トロンプイユ」の手法をもって限りなく軽い「石」をイメージした、「天然物」と「人工物」のはざまを探る、ポリウレタン製の作品。

3.

縄文時代晩期の石剣(埼玉県岩槻市真福寺遺跡)[東京大学総合研究博物館蔵]

二条刻んだ沈線の間を敲打痕を意図的に残し、把部との区画を作り出している、儀礼の道具。「原型」が有する完全なる造形美を留めている。

4.

アブデルカデル・ベンチャマ『無題(石切り場にある石盤)』[ギャラリー デュ ジュール アニエス・ペー(パリ)提供]

緻密なインク・ドローイングに現れる無機質な石の複雑な造形は、抽象的な表現の可能性を拓く。石が有する造形的な可能性を作品の主題に置いた現代美術作品の一つ。

5.

「バードストーン」コレクション [個人蔵]

現米国東西部で産出する先史時代の磨製石器の一つ。鳥や動物を抽象的に表すアーティファクトは必ず平たいベースと二つの穿孔を有するが、用途が定かでない。そのミニマリストな造形美は、ジャン・アルブをはじめ近代彫刻の理念を一新した作家を連想させる。

6.

シャルロット・モフ『思考する作業、作業する思考』[ギャラリー・マルセル・アリックス(パリ)蔵]

伝統的な石彫刻の代表例を映像に留め、その素材を活かした「石版」という手法で製作された作品シリーズ。石が美術の素材として使用されていた時代を再解釈する。

Special Exhibition

The Quarries of Imagination

— Stones between Art and Artifact

1.



Photography © UMUT

2.



Courtesy Galerie Semiose, Paris / Photography © A. Mole

4.



Courtesy Galerie du jour agnès b., Paris / Photography © Rebecca Fanuele

5.



Photography © UMUT

6.



Courtesy Galerie Marcelle Alix, Paris / Photography © Charlotte Moth

3.



Photography © UMUT

石の想像界

特別展示
アートとアーティファクトのはざまへ